

法政大学大原社会問題研究所

# 所 報

(2023.9.1～9.30)

## □刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』779・780号(2023年9・10月)

## □図書受入

	和 書	洋 書	計
購 入	37	3	40
受 贈	15	0	15
合 計	52	3	55

## □閲覧サービス

### 閲覧

開館日数	20日
閲覧者数	16名
貸出図書	16冊

### コピーサービス

学外	8件	1,389枚
学内	2件	393枚

## 日 誌

- 1日 HOSEI ミュージアム×法政大学大原社会問題研究所 HOSEI ミュージアムテーマ展示〈働く人々とその社会の探究〉「社会を記録する」第1部開催(於:HOSEI ミュージアム, ~12月23日) 月例研究会(HOSEI ミュージアムと共同開催, 於:HOSEI ミュージアム)  
伊東林蔵・土井雄貴(兼任研究員)「HOSEI ミュージアムテーマ展示「社会を記録する」ギャラリートーク」
- 2日 平塚らいてう資料研究会
- 3日 倉敷中央病院創立100周年記念事業シンポジウム・大原ネットワーク昼食懇談会(参加:藤原)
- 5日 IALHI(労働史研究機関国際協会)大会・総会(参加:榎)
- 6日 事務会議  
所員会議
- 12日 環境・市民活動アーカイブズ資料整理研究会  
宇野淳子(アーキビスト)「1970年代東京都

公害問題対策資料」の整理状況について」

- 18日 「女性思想の日欧比較研究」共同研究プロジェクト

ファヨル入江君子(甲南大学文学部講師/嘱託研究員)「18世紀フランスにおける「女性の健康」としての「母性」概念——エルザ・ドルラン『人種の母胎』を手がかりにして」  
後藤浩子(法政大学経済学部教授)「情操形成における「他者」の役割——保育者と女性市民」

- 20日 運営委員会

- ①客員研究員の承認  
②兼任研究員の承認  
③環境アーカイブズRAの承認  
④海外出張について

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

- 23日 大原社会政策研究会(110回)

浜恵介(大阪大学大学院文学研究科博士課程)  
「1999年の石垣市平和港湾宣言と米軍掃海艇入港事件——先島諸島軍事化の前提」

- 28日 来所:松井敏也氏(筑波大学芸術系教授)(文書箱の空気調査, 対応:中村)

大原社会問題研究所雑誌

No.783(2024年1月号)

2024年1月1日発行

定価1,018円(本体926円+税10%)

年間購読12,000円(税込)

編集(兼)発行人 法政大学大原社会問題研究所

編集長 藤原千沙

所長 布川日佐史

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

電話042(783)2305

印刷 株式会社相模プリント

# 投稿募集

『大原社会問題研究所雑誌』は、社会労働問題に関する学術研究雑誌で、「論文」「資料紹介」「調査報告」の投稿を受け付けております。下記の投稿規程と執筆要領に基づいてご投稿ください。規程と要領に沿わない原稿は受理できません。[2019.10.1 改定]

## 投稿規程

1. 投稿原稿はワープロ・パソコン作成による未発表のものに限ります。
2. 投稿原稿の分量は、原則 20,000 字以内（図表・スペースを含む）です。
3. 投稿原稿は、審査用原稿となりますので、本文や注などで執筆者が特定される記述をしないでください。1 ページ目は、原稿の題目に続けて無記名で本文に入ってください。
4. 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。「論文」は審査の結果、「研究ノート」となることがあります。
5. 掲載原稿には、掲載誌 2 冊と抜刷 30 部をさしあげます。
6. 投稿者は、次の各 3 部を下記宛てに郵送してください。

A：投稿原稿（審査用原稿）

B：投稿原稿の要旨（1,000 字程度）

C：表題紙

C の表題紙に記載する事項は、投稿原稿の、①題名、②目次、③分量（図表を除く文字数（スペースを含める））、④図表の有無と数、⑤著者の氏名（よみがなを併記）、⑥肩書き（所属・職名、大学の場合は学部等まで）、⑦略歴、⑧連絡先（郵便番号、住所、電話番号、電子メールアドレス）です。

7. 投稿者は、投稿原稿の郵送後、B：投稿原稿の要旨、C：表題紙を、下記宛てに電子メール（もしくは FAX）で送信してください。件名は【投稿(お名前)】としてください。

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会宛

【郵送先】〒194-0298 東京都町田市相原町 4342 法政大学大原社会問題研究所

【メールアドレス】ohara-journal@hosei.ac.jp 【FAX】042-783-2311

## 投稿原稿 執筆要領

1. A 4 判の横書き、40 字×40 行、下部にページ数を付し、白黒・片面で印刷する。
2. 原則として、数字は算用数字、句読点は「、」と「。」を用いる。
3. 本文の各節には「.」のない 1 2 …を用いる。
4. ワードプロソフトによる脚注の挿入機能は使用してよい。
5. 図表は、白黒印刷できるものを提出する。本文には余白に【表 1】等と挿入場所を指定し、図表そのものは別紙に一括し、通し番号をつける。図表の文字換算数は定めないが、審査にあたっては、図表の大きさで全体の分量を概算する。
6. 参考文献は、著者名・発行年・論文名・雑誌名（書籍名）・巻号（出版社）・雑誌の場合は頁数を記述し、著者名（姓）のアルファベット順または五十音順に記載する。ただし他の記載方法も可とする。

### 【記載例】

榎一江（2017）「近代日本のパターナリズムと福利施設」『大原社会問題研究所雑誌』705 号、29-43 頁

原伸子（2015）「イギリスにおける福祉改革と子どもの貧困——「第三の道」と社会的投資アプローチ」原伸子・岩田美香・宮島喬編『現代社会と子どもの貧困——福祉・労働の視点から』大月書店

Suzuki, Akira（2016）“Japanese Labour Unions and Nuclear Energy: A Historical Analysis of Their Ideologies and Worldviews,” *Journal of Contemporary Asia*, Vol.46, No.4, 591-613.